【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和7年6月25日(2025.6.25)

【国際公開番号】WO2024/101258
【出願番号】特願2024-557371(P2024-557371)
【国際特許分類】
C08F 20/38(2006.01)
C07C327/26(2006.01)
C07C327/22(2006.01)
C09J 4/00(2006.01)
【FI】
C08F 20/38
C07C327/26 CSP
C07C327/22
C09J 4/00

【手続補正書】
【提出日】令和7年4月10日(2025.4.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０２２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０２２７】
反応工程において、第１変性剤および第２変性剤の反応順序は、特に制限されない。例えば、３官能以上の硫黄含有ポリチオールと、第１変性剤および第２変性剤とを、同時に反応させてもよい。また、先に、３官能以上の硫黄含有ポリチオールと第１変性剤とを反応させ、その後、これらの反応生成物と第２変性剤とを反応させてもよい。また、例えば、先に、３官能以上の硫黄含有ポリチオールと第２変性剤とを反応させ、その後、これらの反応生成物と第１変性剤とを反応させてもよい。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０２６９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０２６９】
なお、第１変性剤、第２変性剤、および、これらを反応させる方法は、上記に限定されない。例えば、３官能以上の硫黄含有ポリチオールと第１変性剤との反応として、エン－チオール反応が挙げられる。また、第１変性剤として、例えば、上記した３官能以上の硫黄含有ポリチオールとエン－チオール反応可能な化合物があげられる。そのような化合物としては、例えば、ビニル化合物が挙げられる。ビニル化合物としては、例えば、スチレン、メチルスチレンおよびブチルスチレンが挙げられる。これらは、単独使用または２種類以上併用できる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０２９２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０２９２】

粗生成物を、ジクロロメタン１００ｍＬで希釈し、希釈液（溶液）を得た。希釈液を、１００ｍＬのシリカゲルに通液した。また、希釈液を、ジクロロメタン３００ｍＬを使用して流出させた。その後、流出した希釈液（溶液）を、エバポレーターで濃縮した。これにより、一次反応生成物８３．４ｇを得た。一次反応生成物は、ＧＳＴの部分ベンゾイル化物であった。